



昨秋からユアハウスに通
つてきている八十五歳の小
山さん(仮名・女性)一月
二十六日にも登場)。一人
暮らしで認知症があります
が、登録から一カ月後には
一人で歩いて来所。二カ月
後には、電話を入れなくて
も毎朝九時ごろ「おはよう
ございます」と来られるよ
うになりました。

笑顔も増え、毎日が順調
に過ぎていきましたが、小山
さんが来ない朝がありました
た。電話にも出ないため、
急ぎよスタッフが訪問する
と、小山さんは布団の上で
強い腰の痛みを訴えていま
した。スタッフと病院へ行
き、背骨の圧迫骨折との診
断を受けました。

医師は「入院やギブスの
必要はありません。痛み止
めを飲み、安静にして様子
を見ましよう」。ただ、ず
っと横になって過していま
ると筋力が低下して歩けな
くなってしまったため「無理
のない範囲で活動してくだ
さい」と話しました。

突然、生活の全てに支援
が必要になった小山さん。
その日からサービスマン内
容を変更し、痛みが治まり、一
人でトイレに行けるように
なるまで、ユアハウスに泊

困ったときの「安心」に

まることになりました。
それでも認知症のため、
痛みが圧迫骨折からきてい
ることはすぐ忘れてしま
います。「そろそろ家に帰ら
ない」と「こんなに腰が痛
けりゃ、もうおしまいだ」
と、家に帰りたい気持ち
と、痛みに対する不安が言
葉に出ます。
支えられて歩くのがやっ
とでしたが、食事の時はリ
ビングに行って他の利用者
さんと一緒に食べるなど、
スタッフは無理のない範囲
で活動できるよう支援。数
週間して徐々に痛みも治ま
って、少しずつ身の回りの
ことができるようになって
きました。
そこで私は小山さんに、
自宅に帰るにあたり不安は
あるか、あるならそれは何
かーと質問してみました。
小山さんは「あそこの部屋
に一人でいるの、ちょっと
寂しい」「でもここにすっ
といるわけにも、いかに
しね」と言いました。
私が「ユアハウスのサー
ビスを利用することで、自
宅で安心して生活できるよ
うになってほしいと思っ
ています」と伝えると、小山

さんは「そろね、今までも
頑張ってきたしね。ここに
来れば良いのよね? そろ
すれば安心よね」と返事を
してくれました。
次の週、小山さんは自宅
に帰りました。数日間はず
っと家で過ごしてしま
が、その後、徐々に以前の
ようにユアハウスに通える
ようになりました。
小山さんは、泊まりのサ
ービスを利用したことで体
の状態は改善しましたが、
共同生活を送ったことで一
人の生活に戻ること不安
を感じたのでしよう。一人
で生きることに向き合う力
を持ち続けてほしい、また
持ち続けられるように支援
をしていきたい。と今回、
強く感じました。

小山さんは、今はほぼ毎
日、同じ時間に「おはよう
ございます」と来所。スタ
ッフの手伝いや、他の利用
者さんとおしゃべりをして
過ごしています。
(横島真美 44歳)
ヤ ー・四十四歳)

◇ 小規模多機能型居宅介護
事業所「ユアハウス弥生」
(東京都文京区)のスタッ
フが、介護の実践を報告す
る。
次回(五月三十一日掲載)



近所のカフェで笑顔
を見せる小山さん